



▶ セッション「電子政府化の進展と電子記録管理」のねらい

菊池 光興
国立公文書館

みなさまおはようございます。はじめに、多くの興味深いセッションの中から当セッションへの出席を選択して下さったみなさまにお礼申し上げます。私は菊池光興と申します。日本の国立公文書館長と ICA 東アジア地域支部 (EASTICA) の議長を務めております。この場でみなさまに当セッションを簡単にご紹介できますことをうれしく思います。

昨年10月、日本国立公文書館は「電子政府化の進展と電子記録管理」と題した第8回 EASTICA 総会を開催いたしました。EASTICA 加盟の公文書館から専門家を、さらに特別ゲストとして米国立公文書記録管理局電子記録アーカイブプログラムディレクターケネス・ティボドー博士、本日も臨席の筑波大学大学院杉本重雄教授、マレーシア国立公文書館電子記録支援業務責任者シャイディン・シャフィー氏をお招きいたしました。

この第8回総会は成功裏に終わりました。私たちは、EASTICA 加盟の公文書館が電子政府の困難な課題に立ち向かうために真剣に活動していることを知りました。例えば、専門家の報告では、加盟国のほとんどが電子政府の実験的段階を過ぎ、実施段階に進んでいることが示されました。この総会が成功した理由のひとつは、私たちが昨年、共通の課題をみつけ、互いの経験を共有し、学ぶべき意見の交換を行ったことにあると言えるでしょう。実際、本日のセミナーは、さまざまな国際的視座から皆さんと共にこれらの成果の一部を共有し、最近の進展を学ぶために、組織されました。

新しい視座を提示するために、中国国家档案局技術部長 Wang Liangcheng 氏、韓国国家記録院記録物情報部副部长 Kwag Jeong 氏、日本国立公文書館業務課利用係長中島康比古氏をお招きしました。3名の発表の後、筑波大学杉本重雄教授が昨年のセミナーで提起された課題についてさらに詳しく説明いたします。

最後に、EASTICA 事務局長であるサイモン・チュー氏にお礼を述べたいと思います。どうかみなさま、当セッションのモデレーターを務めるサイモン・チュー氏に拍手をお送り下さい。チューさん (サイモン)、壇上にお上がりください。

当セッションをお選び下さったことに改めてお礼申し上げます。